



笑顔あふれる泉大津市!!

笑顔でこどもがのびのび遊べる広場を!

笑顔で挨拶が飛び交う町を!

笑顔でみんなが助け合う町を!

～**第二回**～

『林哲二・市政報告会』開催のお知らせ

日 時：平成19年11月2日(金)

午後7時開場・午後7時30分開会

場 所：松之浜長寿園

泉大津市議会議員として、はや半年の月日が経ちました。
9月には第3回定例会が9月11日より9月28日まで18日間あり、
その中では初めての一般質問もさせていただきましたし、
決算委員会等、色々なことを経験させていただきました。
それらをまとめてお話させていただきたいと思えます。
是非ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

私の思い⑩

『飽食と貧困』

最近、特に思うこと。それは、食べ物に関してでございませぬ。

私は昭和三十六年生まれですから、戦前戦後の食べ物に満足しない時代は経験しておりませんが、本やテレビなどで、いかに厳しい状態だったかは知っています。

それこそ、おいも一つを食べるのでも大変だった時代……。それに比べて私たちの今の生活が何と贅沢なことか……。

私がまだ小学校の低学年だった頃は、畳の上で正座して食事をしていました。明治生まれの厳しい祖父が、ぎろつと睨みをきかせて、食べ残しのないように緊張しながら食事していたのを今でもよく覚えています。

しかし、食べるものがなくて、ひもじい思いをするころとはありませんでしたので、どうしようもない辛さを味わった訳ではありません。これは本当に大変ありがたいことだと感謝しております。

ところが現在では私を含め、食べることのありがたさを感じるどころか、簡単に食べ物を棄ててしまします。ホテルなどでの各種宴会では当たり前のように食べ残され、各家庭でも子供たちは当たり前のように嫌いなものは残し、コンビニ弁当の売れ残りや飲食店でも食べ残しや賞味期限切れの食材は大量に棄てられています。そして、何と日本国内では1日約3,000万人分の食べ物が棄てられているのです。しかも驚く事にこれだけの数の食べ物を棄てながら日本の食糧（穀物）自給率はなんとわずか28%という先進国で

は最低の水準なのです。要するに自分の国で食べるものが自分の国でまかなえない、作れない、そして海外にたよっていかなくてはいけない状態になっていながら（約70%を輸入にたよる）、3,000万人分の食糧を棄てている。こんな理不尽な事をしている国が他にあるでしょうか。

その一方で、世界の中では貧困にあえぐ5万人もの人が毎日飢餓で亡くなっています。

私たちは、今こそ、この現実に目をむけて、今の贅沢で傲慢な生活を改める必要があるのではないでしようか……。

この贅沢・傲慢という言葉には違和感を覚える人がたくさんいると思います。

「贅沢どころか、うちは、家計がいつも目一杯で大変な状況だ！」

「贅沢なんかしたくても出来るわけも余裕もない！」

「生活費を切り詰めて、朝早くから夜遅くまで毎日働きづめで必死で生きているのに何が傲慢か！」

たしかに、贅沢など一切せずにつつましく生きている方もたくさんいらっしゃいますし、一生懸命に生きてます。ただ、私はこのような事実にもどうか目を向けてもらって、一人一人が少しでも今の食生活のあり方を意識して、無駄に買すぎたり、食べ残したりする事のないように心がけて下さればと思っております。

最後に私が好きな「相田みつを」さんの言葉から

『うばい合えば足らぬ、わけ合えばあまる、うばい合えば憎しみ、わけ合えば安らぎ』